

氏名	足立富郎
学位の種類	医学博士
学位授与番号	甲第512号
学位授与の日付	昭和56年3月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	骨髄腫の化学療法に関する臨床的研究 第1編：Melphalan療法およびIfosfamide療法の治療効果の検討 第2編：Melphalan-Ifosfamide-Prednisolone交替併用療法における治療効果、予後因子および副作用の検討
論文審査委員	教授 長島秀夫 教授 大藤 眞 教授 折田薫三

学位論文内容の要旨

近年、人口の高齢化と診断法の進歩により骨髄腫の発生頻度は増加傾向にある。そして骨髄腫に対する化学療法も、Melphalanを中心とした多剤併用療法が主流となり、その治療効果および生存期間に関する報告が相次いでいる。

第1編では、これら多剤併用療法に用いられている薬剤のうち、Melphalan および Ifosfamide をとりあげ、その治療効果について比較検討し、これらの治療法がいずれも骨髄腫に対して有効であることを明らかにし、さらにM(P)療法について病期別の治療効果と生存期間について検討し、早期および中期骨髄腫に対しては有効であり、生存期間も有意に延長していた。

第2編では、単独療法で有効と考えられたMelphalanとIfosfamideにPrednisoloneを加えた交替併用療法(MIP療法)を施行し、その治療効果が単独療法よりも優れていることを確めた。ついで、各種予後因子につき検討した結果、年齢、病期、補正Ca濃度、骨病変、病型、M蛋白減少率において有意差を得た。M蛋白50%以上減少発現までの期間が短い群は、長い群に対して寛解持続期間が長く、生存期間も有意に延長していた。また、M(P)療法とMIP療法の病期別の治療効果および生存期間の比較では、M(P)療法は、早期・中期骨髄腫に対して有効であり、生存期間の延長がみられるが、反対に、MIP療法は、進展期骨髄腫に対して有効であり、生存期間も延長させていた。最後に、MIP

療法中の副作用および合併症についても検討し、骨髄腫に対するM I P療法の特徴について明らかにした。

論文審査の結果の要旨

本研究は骨髄腫の化学療法を詳細に検討した。即ち、Malphalan, Ifosfamide, Malphalan と Prednisolone の併用, Malphalan - Ifosfamide - Prednisolone 交替併用療法について、その治療効果、各種の予後因子および副作用等を検討し、骨髄腫に対する化学療法の特徴を明らかにした。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。